

---

# 長官、ご苦労さま

朝は四時起き

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

iJのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

長官、iJ苦勞さま

### 【著者名】

N1997M

### 【作者名】

朝は四時起き

### 【あらすじ】

陳腐な名前の主人公でだらだらお送りしようかとおもいます

## プロローグ的な

「メンヒベルグお前、よくやつてるよな。お前の課、すげーハードなんだろ?」

昼食を食べてこると、他の課に所属する同僚に声をかけられた。

「え、全然」

ラーメンをすすりつつ答えると、相手は驚いたような顔をした。

「いや、絶対大変だろ。毎日出張みたいなスケジュールじゃないか

「そういえば、こいつは最近うちの部署に配属されたんだっけ。前いたのはうちと関わりが薄いところだったんだな。

「知らないとは、不幸なことだなあ。なぜうちの課はハードなのに入社倍率が600倍を超えているのか…分かるか

「そんなに…なんで…と驚く同僚。

「ふ…なぜないうひの課には、あの長官がいるからな…!」

## テンション高くな?

「この課は今日も忙しい。いわば必要悪な感じの課なので具体的なことはいえないが、とにかく今日も忙しい。

忙しいところに」。

「…働きなさいカスビもッ…」。

「カスはひどいすよー」

だらけた様子で返事をする部下の一人のメンヒベルグ。前髪をピンで止めた茶髪の男だ。

「なぜいつもおぼつでいるんですか！給料泥棒ですよー」

「いやあ長面を見てたらついにやけちゃって」

「こやけるなー」

「怒った顔も可愛いですよー」

「ツー？やめなさいー私は男なんですけどー」

「えー、褒めてんのこ」

そつ言つてメンヒベルグはへらりと笑い、しかたなさそつに手元の書類を片付けだした。

「つたへ…」

「「つおーー、ミツカわやーん！」

「……」

「ミカちゃん何その顔。え？そんなに僕が嫌いかい？」

「…これ、別に。ミカちゃんと呼ばないでください」

またうるせーこのがやつてきた。

上司のくせに軽い人だ。

「ミカエルって呼ぶのはなんか嫌なんだよね。ま、機嫌直してさあ、ちょっとこの紛争止めてきてよ」

軽くなかった。

「紛争って。それ、アレスさんのとこの喧嘩じゃないんですか？」

「ま、そりなんだけどね。軍神さんは今忙しいみたいだから、こいつに回つてきちゃった。

だいじょぶだいじょぶ、適当になだめれば止まるって」

「そんなもんなんですか？更に悪化したりしません？激しく不安なんですけど…」

また上司はだいじょぶだいじょぶと言つた。

「シモン君とスタッフアリ君が喧嘩してるだけだし」

「どうせハカルとは違う課にいる、上の上司の部下だ。

「んーま、シン君が一方的に攻撃してるんだけどね

「紛争じゃないですよ、それ…どうせスタッフヴァリさんガサボつてたからでしょー…」

「まーね

「まーね、じゃないですよ。回ってきたんじゃなくて、最初からこの部署の問題でしょー…。ほつとけ ばいですよ、そんなん

だよねと直呼んで上回。ただ無駄話をしに来ただけじゃないのか。

「アハハハ、ミカちゃん。来週も仕事頼むことになるかも」

「…どうせやくな」とじゅ…

「…来週…?」

急にメンヒベルグが会話に参加してきた。

「はいっー長官ーその仕事絶対するべきだと思いまーー！」

そのとたん、他の部下たちも一斉に声を上げ始めた。

「長官お願いしますー」「一生のお願いー」「今日で一ヶ月分の働きをしますからー…」

「ジヨ・ソ・ウ・ジヨ・ソ・ウ…」

田が仕事中には見られないほど、生氣に満ちあふれてゐる。

「なつ、なんですか！？何のトランション…？え、女装…？」

「うとう。来週ね、ミスコンあるんだよな。女装の（笑）」

「出ますよね長官…」「出なこはづがなこすよな…？」「出場するならなら、俺たち仕事ちゃんとやらりますよー」「絶対似合つてしまふ…」「女の子みたいな顔ですしね…」「ううかじつは女でしょ！」

「」の、部下だ。こんな時だけ生き生きとしてる。

「…誰が出るかあああああああ…」

「」の課は、だいたいいつもこんなトランションでお送りしてくる。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1997m/>

---

長官、ご苦労さま

2010年10月9日05時49分発行